

基礎的・基本的な内容の定着を図るための書写指導の工夫 ～山陽東小版学習指導のスタンダードを活用して～

会場 赤磐市立山陽東小学校

期日 平成三十年十一月二十七日（火）

一 はじめに

冬の足音が聞こえ始めた肌寒い中、県下各地からたくさんの方をお迎えし、研究大会を無事開催することができました。

開会行事、本校の研究発表の後、低・中・高学年と特別支援学級の四学級の授業を公開しました。部会ごとの研究協議を行い、ご意見・ご助言をいただきました。

その後の全体会では、県内二地区を代表して、倉敷市立第四福田小学校の前田舞先生、津山市立津山東中学校の田村尚子先生からの実践発表の後、県習字教育研究会研究部長の宮本毛登明先生より、指導講評をいただきました。ご参加の皆様にも貴重なご意見・ご助言をいただき、誠にありがとうございました。



元県習字教育研究会常任理事、元小学校校長、日展会友、県書道連盟副会長の寺坂昌三先生には、「書写教育で学力向上」教育活動の基盤づくり書写」

おける書写教育の重要性についてお話いただきました。

二 研究主題について

（一）研究主題設定の理由

書写の内容は、学習指導要領小学校国語科「我が国の言語文化に関する事項」に示されています。

低学年では、「姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと」や「点画の書き方や文字の形」「点画相互の接し方や交わり方」などを理解させ、使うことができるようにすることをねらいとしています。中学年では、「文字の組立て方」や「漢字や仮名の大きさ、配列」「毛筆を使用しての点画の書き方」へ、高学年では、「用紙全体と文字の大きさや配列」「書く速さ」「穂先の動きと点画のつながり」へと発展していきます。さらには、「筆記具を選択し、その特徴を生かして書く」というように『目的や状況に応じた書き方』へとつながっています。

新学習指導要領で目指している書写の内容は、もちろん文字を正しく整えて書くための基礎的な知識や技能を身に付けることをねらいとしています。とくに高学年で目指す『書く速さ』や『目的に応じた書き方』は、国語科全体で育成を目指す資質・能力の基礎

になるものであり、その他教科の学習活動や日常生活でも生かされる書写の能力だといえます。

そこで、本校では、文字を正しく整えて書くための「基礎的・基本的な知識や技能」とそれらを「主体的に活用しようとする意欲や態度」を育てることが書写教育の目指すものだと考え、研究を進めることにしました。

本校では、昨年までの研究で活用していた「岡山型学習指導のスタンダード」をもとに『山陽東小版書写指導のスタンダード』を作成し、それを活用して授業を行うことで、児童に書写の基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるのではないかと考え、本研究主題を設定しました。

（二）めざす児童の姿

本研究を通して、めざしたい児童の姿は、次の二点です。

・自ら課題を見つけ課題解決をしようとする児童

・習得した知識や技能を日常生活に生かそうとする児童

これらの姿を目指して、書写の授業づくりに取り組んでいくことにしました。

二 研究の内容について

（一）研究組織 三部会

①授業づくり部会

山陽東小版書写指導のスタンダードの活用を通して、児童に「わかった」「できた」という達成感を味わわせるための授業について、研究を進めていきました。

研究授業参観の視点にも「スタンダードの流れ」という項目を入れ、同じ視点で参観、協議できるようにしました。

【山陽東小版書写指導のスタンダード】

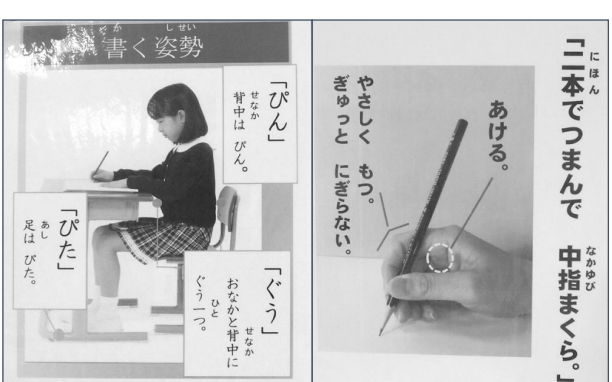
- ① 本時のめあてをつかむ。
- ② 自分で考え、表現する。
- ③ めあての達成度を確認する。
- ④ まとめる。
- ⑤ 振り返る。

②学習習慣部会

書写アンケートを行い、児童の実態を分析し、書写授業に限らず他教科や日常生活においても活用できる学習習慣の定着について研究を進めていきました。

③書写環境部会

書写の授業で身につけた知識や技能を日常の書字活動に生かすための書写環境について研究を進めていきました。

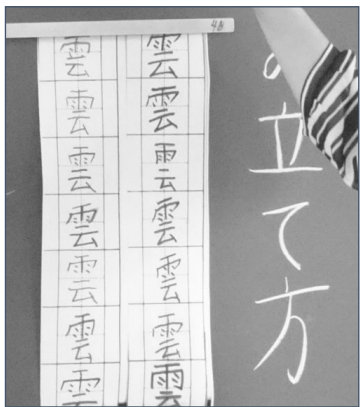


文字を書く時の姿勢や鉛筆の持ち方などの掲示物をつくり、各教室に掲示をして、共通理解を図りました。書写での学びをどんな場面で活用できるのかについて

していきました。

（二）スタンダードの流れに沿った授業
①**本時のめあてをつかむ**

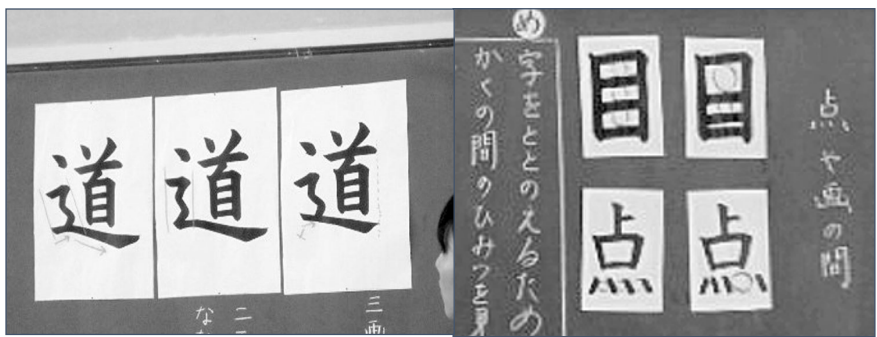
授業の始めに試し書きを行いました。



普段の文字を黒板に掲示してから試し書きを行った授業もありました。一時間の授業を終え

た時に、自分や友達の頑張りを実感して達成感を得たり、日常生活につなげたりすることができるようにするためです。硬筆では最後のまとめ書きと比較しやすいようにワークシートの裏側に試し書きを行うなどの工夫も行いました。

次に教師が作成したモデルを提示し、比較させることでめあてにつながります。



モデルを比較することで児童は、主体的にめあてをつかむことができました。また、毛筆の授業では、部首だけを取り上げて、モデル比較を行う授業もありました。部分的に比較することで、本時のめあてをより明確にすることができました。

そして、自分のめあてを実際の試し書きや手本に書きこんでいきました。児童一人一人が自分で気を付けたい

ことを書きこんでいくことで、本時のめあてをより自分のものとしてとらえることができてきたように思われます。

②自分で考え、表現する

書き始める前には、文字を書く姿勢や鉛筆の持ち方、筆の持ち方を確認しました。「ぐー、ぴた、ぴん」などの合言葉を一緒に唱えて書く姿勢を確かめたり、ペアで筆の持ち方をチェックしたりするなど、正しい姿勢や持ち方が定着するように、発達段階に応じて工夫し、繰り返し指導するようにしました。他教科の授業でも、書く活動の前には姿勢や鉛筆の持ち方を確かめるようにし、定着するように心がけました。一人一人が書く場面では、ワークシートや練習用紙を工夫し児童が意欲的に練習に取り組むことができるようにしました。毛筆では部首だけを練習できるようにしたワークシートを使用したり、個々のスピードで練習できるように自由にワークシートを取りに行ったりできるようなし



取り組んでいきました。

③めあての達成度を確認する

めあての達成度を確認する時には

主に自己評価からペアでの相互評価の形を取りました。よく書けていると思う部分に自分で印をつけ、ペアの友達にワークシートを見せながら説明したり、友達に評価してもらったりすることで、児童は自分の頑張りを客観的に見たり、達成感を得たりするこ



とができたと思われます。相互評価を始めたころは、なかなかペアでの活動がうまくいかず、何を評価すればよいのか戸惑う児童もたくさん見られました。児童に行ったアンケートでも見られたように、児童自身の評価も低く、ペア学習の経験不足を感じました。そこで、書写の授業だけではなく、他教科の学習でも、意識してペア学習を取り入れることで、活発な意見が出たり、よりめあてに近づいた評価になったりしてきたと思われます。

④まとめる

本時のめあてに沿って、まとめを行っていきました。低学年では、合言葉を確かめながら板書をしたり、全体で合言葉を言いながら空書きをしたりしてまとめていきました。中学年や高学年でもポイントを確かめながらまとめて行うようにしました。

まとめる段階で特に気を付けたところは、日常の書字活動につなげられるようなまとめを工夫したところです。学習した文字だけでなく、他の文字にも活用できるように分かりやすくまとめその後、まとめ書きを行うことで、児童はポイントを意識しながら、書くことができるようになったと思います。

研究会当日の四年生の公開授業では『まがりの筆遣い』の学習行い、互いに筆遣いを見合う場面をまとめ書きの時間として見ていただきました。作品そのものの評価ではなく筆遣いを相互



評価することで、評価の観点が焦点化されたような気がします。評価については、よりめあてに沿った評価ができるように、今後も研究を進めていきたいと思ひます。

⑤振り返る

振り返る場面では、試し書きとまとめ書きを比較し、よくなったところを実感することができるようになりました。中学年、高学年では、自己評価をし、よくなったと思うところを付せんに書き込み、次の課題発見につなげた授業もありました。学習活動をワークシートに◎○△で評価したり、他教科でも活用している「わ・お・と・も」(わかったこと・思ったこと・友達のよかったところ・もっと



知りたいことややってみたいこと」の観点で発表させたりすることで振り返る学年もありました。各学年の実践では、児童の発達段階に応じた振り返りの工夫が見られました。

一年生の公開授業では、まとめ書きをした後、日常使用している連絡帳の文字と比べることで、その時間の振り返りを行いました。普段、何気なく書いている文字とおれやまがりの書き方のポイントを意識しながら書いたまとめ書きの文字とを比べることで、より日常の書字活動へのつながりを意識できるのではないかと期待しての実践でした。子どもたちは、瞳を輝かせて連絡



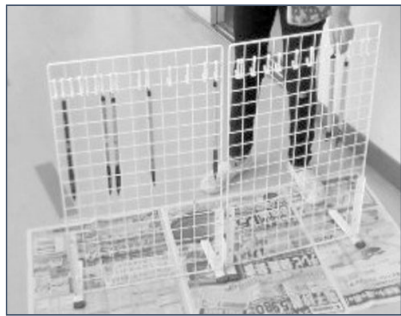
帳を覗き込み、自分の普段の文字とまとめ書きの文字を比べていました。授業実践後、連絡帳の文字を丁寧にごうと意識する児童が増えてきています。

今後、日常の書字活動とつなげることを意識して、工夫をして

三 成果と課題について

【成果】

①書写環境の整備



毛筆の指導で使う筆立てを作成し、三年生以上の教室に置きました。授業中は、紙ばさみを机の横にかけ、作品を入れていくことで、どうしても物が多くなりがちな机上や机の周りを整理することができました。

②書写学習への構え

書写用語の定着を図り、教師の話や児童たちの話合いで使えるように、授業で活用できる掲示物を作成しました。発表やペア学習でも書写用語を使って話す児童の姿が見られるようになってきました。書く姿勢や鉛筆の持ち方については教師が書写以外の学習でも気を付けて声をかけるようになってきたため、自分で気を付けようとする児童が増えてきました。

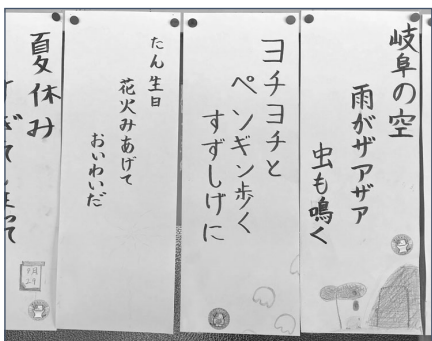


③書写授業のスタンダードが定着

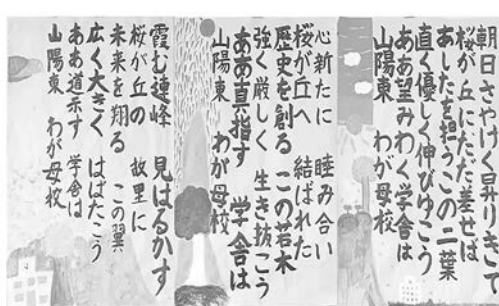
書写指導のスタンダードの流れが共通理解され、定着してきたことで、教師の経験年数や担任の得手不得手に関わらず、学校全体である程度統一された授

業をすることができるようになりました。教師の書写に対する理解が深まり、以前よりもさらに意欲的に書写授業に取り組むようになったことで、児童の書写授業に対する意欲も高まってきたと思われま

④書写の学びを生かそうとする取組



赤磐市立山陽東小学校 校歌



書道クラブ作

今後、文字を書くことを楽しむ児童の姿がさらに増えていくことを期待しています。

【課題】

①スタンダードの流れの中での課題

一単位時間内でのめあてをつかむ時間や振り返る時間などと表現する時間との配分が課題になった授業も多く見られました。ポイントを押さえてめあてをつかませることで、導入の時間をスリム化し、個々が書く時間もしっかりと確保できるようにしたいと思います。めあての達成度を確認する場面で用いたペア学習では、進んで友達のよさを見つけて伝えようとする姿勢が見られるようになってきました。十分な語いがなかったり、作品を見る目に個人差があったりして話合いになっていないと思われるものも見られました。話合いのよいモデルを示したり、他教科でもペア学習を意図的に取り入れたりして、今後も学習経験を積み重ねていくことが大切だと思われま

②個人差への対応

スタンダードに沿った授業を展開していく中で、めあてのもたせ方やワークシートなどについては、個に応じた指導への工夫が見られたものの、やはり技能面では個人差が大きく、既習内容が十分に定着していない児童もあり、一単位時間内では、なかなか自分の成長を感じることでできにくい場合もあることを実感しました。さらに授業を工夫し、多くの児童の技能を上げたり、日常の書字活動へつなげる経験を意図的に積み重ねたりしていくことの重要性を感じました。

三 終わりに

研究発表の機会をいただいた時、何をどのように進めてゆけばよいのかが分からず、職員の間には、不安な気持ちばかりが広がりました。若い教職員も多い本校で、今までの研究を生かしつつ、我々にできることは何かを探りながら進めていったのが、今回の研究です。研究発表を終えた今、まだまだ課題も多く、十分な研究ができていたとは言えませんが、この研究を通して、職員全体の書写に対する理解が深まったこと



と、書写の授業力が向上したことが何よりも大きな成果ではないかと思っています。そして、この書写研究を通して得たことは、他教科の学習にも確実に活用、展開することができるということを実感しています。



様々な年齢層の職員が、書写という教科についてともに考え、互いに意見を出し合い、研究を積み重ねたこの時間は、我々にとって、とても有意義な時間となりました。

また、県習字教育研究会研究部の先生方には、何も分らない我々に丁寧にご指導いただき、研究の方向性を示してくださり、大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

第4学年 国語科(書写)学習指導案

平成 30 年 11 月 27 日(火) 5 校時 指導者 川本 和也

1 単元名 平がなの筆使いをたしかめよう「結び」

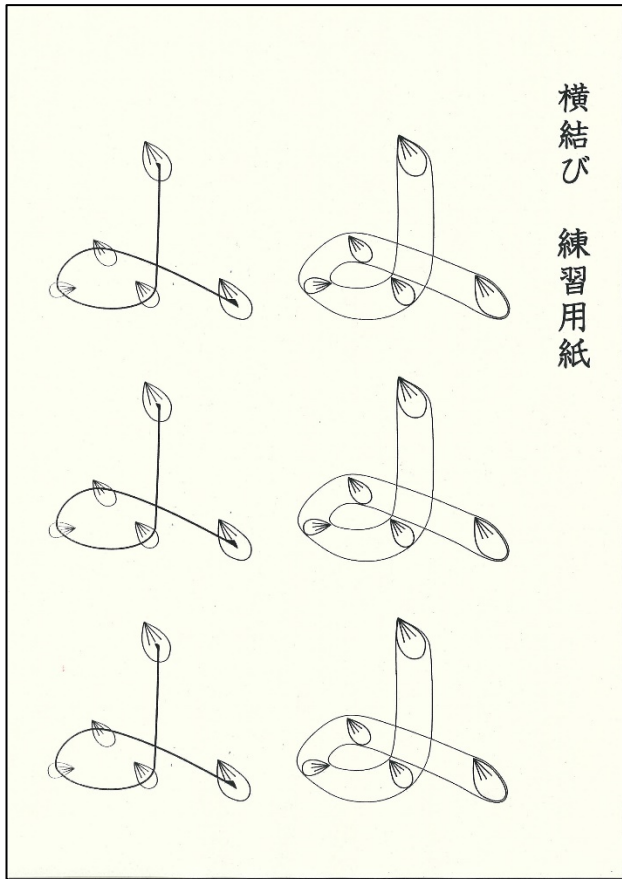
2 単元目標

- 「結び」の筆使いに関する自分の学習課題をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 文字によって「結び」の筆使いが違うことを理解している。(知識・理解)
- 「結び」の筆使いに気を付け、字形を整えて書くことができる。(技能)
- 「はす」の筆使いに気をつけて毛筆で書き、学習したことを日常の文字にも生かして書くことができる。

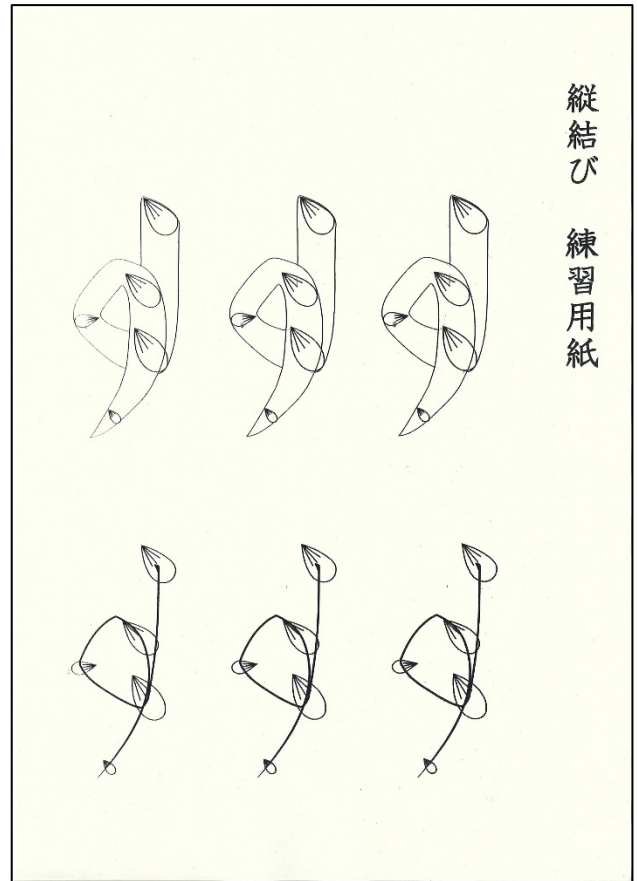
(書写の日常化)

3 本時案

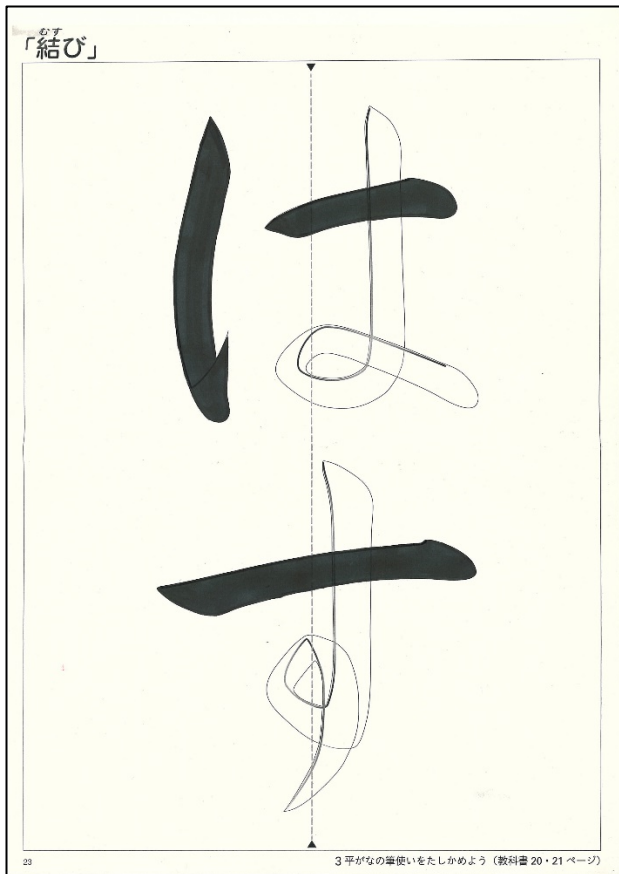
目標	「結び」の筆使いを理解して書くことができる。	
学習活動	教師の支援	評価と準備物
1 本時のめあてをつかむ	○ 「結び」の筆使いを確認するために、動画を見てポイントを押さえる。 ☆ 筆の方向が変わるときは、筆が少し浮いている。 ☆ 筆先はねじれているけど、軸は回っていない。 ☆ 筆を浮かせたときには、動きが止まっている。	・第1時に書いた「はす」 ・字形が整った「はす」と整っていない「はす」
めあて 「結び」の筆使いに気をつけて書こう。		
2 自分で考え、表現する	○ 「結び」の書き方の課題に気づかせるために、自分の「はす」と字形が整った「はす」の文字を比較する。 ○ 課題を視覚的に意識できるように、「はす」の気をつける部分に赤いシールを貼らせる。 ○ 正しい姿勢を意識して字を書くことができるように、筆の持ち方や「グー・ピタ・ピン」の姿勢を確認する。 ○ 「結び」の筆使いの練習が何度でもできるように、練習用紙を用意する。 ○ 到達状況に応じて机間指導をする。筆遣いができている児童には、称賛を中心とした声掛けをする。もう少しでできそうな児童には、ポイントを口頭で指導する。努力を要する児童には、手を取り指導し、体感させることで理解できるようにする。	・赤いシール ○ 自分の学習課題をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度) 【シール】 ・「結び」の練習用紙
3 めあての達成度を確認する	○ 自分が正しい筆遣いができているかどうか確認するために、最後の練習を友達同士で見せ合う。その際、穂先の向きや筆圧などよかった点を褒めたり、アドバイスをしたりできるよう声かけをする。 ○ 意識してまとめ書きができるように、試し書きに貼ったシールや友達からのアドバイスをもう一度確認させる。	
4 まとめる	○ 書く枚数を1枚と制限することで、自分のめあてや友達からのアドバイスを意識して書くことができるようにする。 ○ めあての達成度を確認するために、試し書きと比較し、よくなったところを見つけさせる。	○ 「結び」の書き方を理解して、字形を整えて書くことができる。(技能)【ワークシート】
まとめ 平がなの「結び」はほ先の向きに気をつけて書く。		
5 振り返る	○ 試し書きとまとめ書きを比較し、良くなったところに気づくことができるようにするとともに、次時への課題も見つけるようにする。 ○ 付箋に本時のめあてのキーワードと自分の振り返りを書かせる。	



「結び」の練習用ワークシート①



「結び」の練習用ワークシート②



「結び」の練習用ワークシート③